



2023年12月1日

サーキュラーハウス・サーキュラーラボ設立PJ@蒲郡

サーキュラーツアー レポート

「循環型ビジネスの共創コミュニティ」との共催



Think Global Garden
UNISON

株式会社ユニソンは“循環型ビジネスの共創コミュニティ”※との共催でサーキュラーツアーを2023年11月21日に開催しました。
愛知県蒲郡市はサーキュラーエコノミーの実装と市民のウェルビーイングを目指し「サーキュラーシティ蒲郡」を表明しています。そこで循環型のモノづくりを進めている企業の訪問や蒲郡市の活動状況を推進担当者からリアルに学ぶ試みとしました。



※“循環型ビジネスの共創コミュニティ”は、一般社団法人社会デザイン・ビジネスラボと株式会社ユニソン、株式会社JSOLとの協働プロジェクトとして運営されています。

集合場所は愛知県蒲郡市のJR蒲郡駅。蒲郡市の人口は約8万人。愛知県東部の三河エリアにあり、かつて綿織物の産地として栄えた街です。今も市内にはノコギリ屋根の工場の姿を見ることができます。また、三河湾に面したこの地は漁業も盛んです。全国的に有名なのが“蒲郡みかん”！郊外の丘陵地には多くのみかん畑を見ることができます。海と山に囲まれたここ蒲郡はとても自然豊かな街です。

今回のツアーにアテンド役として参加してくださったのは、

株式会社新東通信 CIRCULAR DESIGN STUDIO.スタジオ長 山下史哲氏。

山下氏は蒲郡市のサーキュラーシティの活動にも伴走されており、市内で活動されている企業さんとも深いつながりを持っておられます。見学ツアーに先立って、マイクロバスの中で山下氏から蒲郡市の取り組みと見学させていただく企業2社の概要について情報提供していただきました。



最初にお邪魔したのは明治30年創業の繊維商社森菊株式会社です。ご案内してくださったのは同社でCEの取り組みを推進されている課長の石川さん。森菊株式会社は古くは綿織物が盛んだった蒲郡を中心に繊維商社としてのビジネスを続けて来られましたが、近年は日本国内だけでなくヨーロッパなど海外のアパレル関連メーカーとの取引が多くなっているそう。欧州のCEに関する情報をいち早く察知された石川さんは2015年頃から国内外の関係者と交流しながら循環型のモノづくりについて学びを深められ、蒲郡市がサーキュラーシティを表明したタイミングで市内の他の企業と一緒にCEのイベントに積極的に参加するようになったとのこと。

「欧州のトレンドも年々変化しているように感じる」と石川さん。「以前はオーガニックな素材やカーボンニュートラルに注目が集まっていたが、昨今は人権を重視したモノづくりにトップランナーの注目が集まってきている。キャッチアップするのが難しい」、「欧州には



森菊株式会社



石川氏

様々な先進事例があり、世界的に有名になっているブランドもあるがしっかりと利益を確保できているかという点では、まだまだ多くの課題を抱えているように思う」
石川さんからは課題を克服するキーワードとして**“ブランディング”**と**“異業種とのつながり”**があげられました。再資源化された材料を使うと現時点ではコストアップになりがち。でもブランディングをしっかりと行えている企業は単純な価格競争には陥りづらい。また、異業種との取り組みでは価格ありきの話になりづらく、新たな分野を開拓できる余地がある。繊維商社としてファブレスのビジネスを展開する同社ですが、自社オリジナル製品を循環型の素材を使って進めておられます。

かつてアパレル業界で働いた経験を持つ参加メンバーの方からは

「繊維業界の難しさも知っているからこそ、頑張って欲しい！森菊株式会社と石川さんの取り組みを応援したい！」

と熱いエールが送られました。



石川氏の説明に聞き入る参加者

原野化学工業所は1969年創業のプラスチックリサイクルメーカー。顧客の要望に応じて廃プラスチックを再生ペレットにして出荷するビジネスを展開されています。ご案内くださったのは代表取締役の原野氏。お父様の急逝に伴って、実家のビジネスを承継することになったそう。元々、樹脂再生メーカーだったので資源循環はビジネスの中心軸そのもの。昨今のサーキュラーエコノミーの潮流はそのビジネスの追い風になっていると強く実感されています。再生樹脂のメーカーとしてB to Bのビジネスで再生材料を顧客に届けるだけでは、いまひとつ社員に働きがいを感じさせられていなかったと語る原野さん。そこで「自分たちでオリジナル商品をつくって世の中に発信していこう！」と強い意気込みで生み出された製品が「よみがえるハランガー」です。



従来の樹脂製ハンガーは、種類の異なる樹脂（PP,PE）や金属などが組み合わせられていたため、水平リサイクルが難しかったといえます。

そこでPP樹脂だけを使って作ることで何度でもハンガーとして“よみがえる”ことができるというもの。蒲郡市内のホテルでも使用されるとともに、蒲郡市で婚姻届けを提出したカップルにもれなく「よみがえるハランガー」がプレゼントされるらしいです。「このハンガーを使うカップルは何度でも“愛がよみがえる”こと間違いなし！」と原野さん。

着実にサーキュラーシティ蒲郡での存在感を高めておられる原野化学工業所さんでした。



樹脂を再生する工程



再生前の粉碎された樹脂素材

午後は蒲郡市企画部企画政策課 サークュラーシティ推進室 杉浦太律氏より蒲郡市進めるサーキュラーシティの取り組みについてご紹介頂きました。
蒲郡市では2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を2021年3月に宣言し、2021年11月には、サーキュラーエコノミーを温室効果ガスの排出を実質ゼロにするための手段としてだけでなく、まちづくりに組み込み、蒲郡に関わる全ての人々がウェルビーイングを実感し、このまちを誇りと思う「君が愛する蒲郡」となるよう、「サーキュラーシティ」を目指していくことを表明し、ビジョンを「つながる 交わる 広がるサーキュラーシティ蒲郡」としました。



「サーキュラーシティ」を推進するに当たって、食、健康、消費、観光、交通、教育、ものづくりの七つの重点分野を設定し、活動を進めています。2023年からは実証実験フェーズに突入しており、いくつかのプロジェクトを採択し実証実験が進んでいます。

他にもメルカリと提携して、市内の粗大ごみなどをメルカリで販売する試みも実施。伐採された樹木を薪として販売したり、マンホールの蓋が売れることもあったとのこと。（驚）

まずはサーキュラーエコノミーの考え方に共感する企業に協力いただき、さまざまなイベントや取り組みに参画してもらっているとのこと。

蒲郡市の取り組みをご紹介いただいた後は、杉浦さんと山下さんとでクロストークがスタート。

実際にサーキュラーシティを市民の方々に浸透させていくのは簡単ではありませんが、実際に推進しているからこそ分かることがあります。「同志」×「多様性」×「場」が組み合わせられることで物事が進んでいくという話が非常に印象的でした。



山下氏が持っているのはメルカリとの取り組みで市民のみなさんに配布された専用の箱

参加者全員でサーキュラーエコノミーに関するワークショップも開催しました。

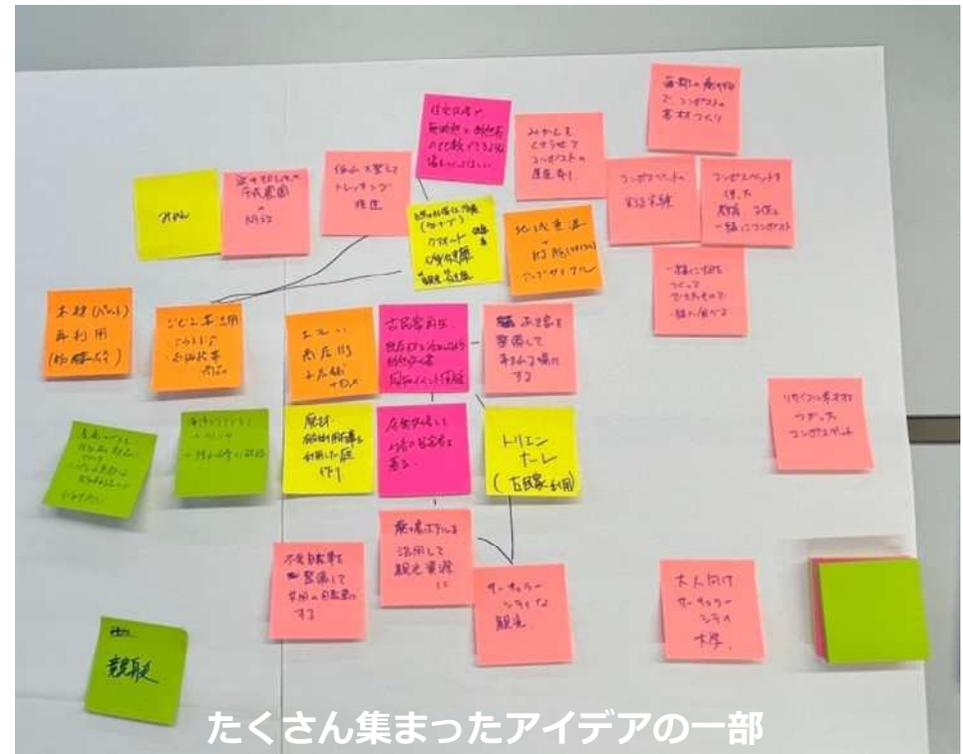
Q1.自分、所属組織、知り合いくらいの範囲内で蒲郡を舞台にサーキュラーな取り組みで出来ることはないか？

Q2.出来るかどうかは別としてやったら面白いと思うアイデアを出してください。

上記二つの問いに対してブレストを実施。様々なセクターから集まっているメンバーだからこそ、面白いアイデアが飛び出します。コンポストとレンタル農園を結びつけるアイデアや実証実験に参加したいという意見などが出ました。



意見を出し合う参加者



たくさん集まったアイデアの一部

CDSの山下さんからは「ゼロウェイスト」と「サーキュラーエコノミー」の違いについて、「どちらが良い、悪いということではなく、ゴミを単に減らすことに注力するのではなく、どうやって循環させていくかまで考える後者により可能性を感じる。環境に配慮し、同時に経済性も成り立たせないといけな。自分たちのビジネスで社会課題を着実に解決していくことが重要。参加者各自がそれぞれの立場でやれることから始めていきましょう」と参加者の皆さんにエールが送られました。



参加者とオブザーバーも加わり記念撮影